

園部藩の 歴史と文化

2019.10.19^{SAT} - 12.8^{SUN}

展示解説会 11月10日[日] 13:30 ~ 15:00 《要入館料》

現地見学会 11月16日[土] 13:30 ~ 16:30 《要予約》

小出家墓所(御廟所)、摩気神社、穴人館跡など園部藩ゆかりの地を巡ります。
集合解散：園部公園駐車場 / 参加費：310円(入館料・保険料・資料代等)
定員：20名(電話にて当館までお申し込みください)

シンポジウム* 10月27日[日] 13:30 ~ 16:30

「園部藩と丹波の諸藩」会場：南丹市国際交流会館 イベントホール
コーディネーター：水本邦彦氏(京都府立大学・長浜バイオ大学 名誉教授)
パネリスト：芦田岩男氏(福知山市佐藤太清記念美術館 学芸員・丹波史研究者)
犬持雅哉氏(南丹市立文化博物館 学芸員)
上甲典子氏(亀岡市文化資料館 学芸員)
西村正芳氏(福知山市文化・スポーツ振興課 課長/福知山公立大学 非常勤講師)
山田洋一氏(元京都府立総合資料館職員・京都府立大学文学部共同研究員)

基調講演 「丹波国の所領配置と小出氏」 山田洋一氏()

講演会* ①②③ともに13:30 ~ 15:00

①11月 3日 園部歴代藩主の肖像画を巡る 福島恒徳氏(花園大学 教授)

②11月23日 園部藩の誕生 - 小出吉親の入部と園部陣屋の築造
福島克彦氏(大山崎町歴史資料館 館長)

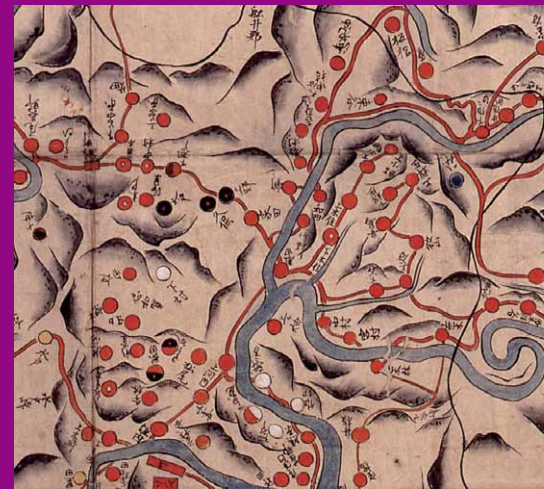
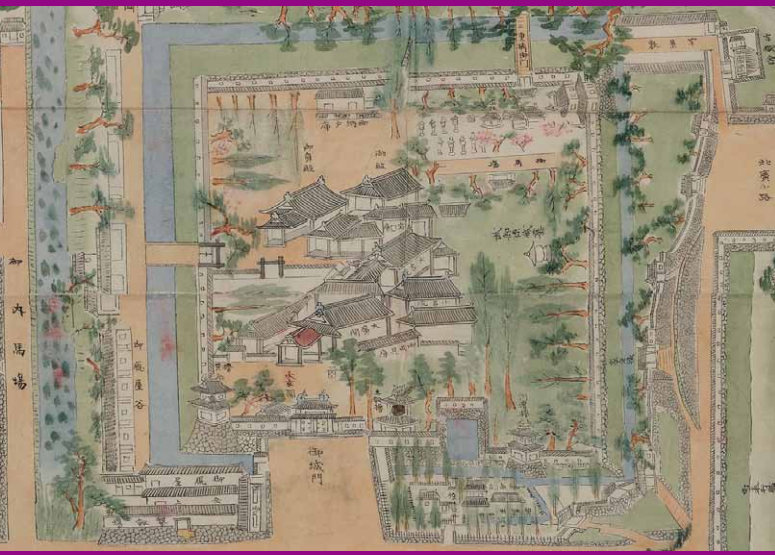
③12月 1日 幕末維新期の園部藩「園部城の誕生」
三浦正幸氏(広島大学 名誉教授)

【会場】①②南丹市国際交流会館 会議室 ③園部高等学校 視聴覚教室

【参加費】300円 但し、高校生以下は無料

【申込み・問合せ先】森の京都「なんたん」 カレッジ事務局 南丹市国際交流会館 Tel.0771-63-1777

* 森の京都「なんたん」エコミュージアム推進事業



開館時間 = 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 = 毎週月曜日 (11月4日は開館)、11月5日[火]

入館料 = 大人310円 (250円) / 学生200円 (160円) / 小中学生100円 (80円)

※ ()内は20名以上の団体料金、南丹市内在住・在校の小・中学生は入館無料

※ 身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳・戦傷病者手帳をお持ちの方は別途割引料金となります(手帳をご提示ください)

南丹市立文化博物館



〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町63番地 TEL.0771 (68)0081 / FAX.0771 (63)2983

【アクセス】◆自動車…京都縦貫自動車道「園部IC」「八木西IC」より約5分。園部公園駐車場をご利用ください。◆公共交通…JR園部駅下車、駅西口より京阪京都交通バス「八田線」もしくは「園線」に乗り、「交流会館前」下車す。または市営ぐるりんバスで「図書館前」下車す。



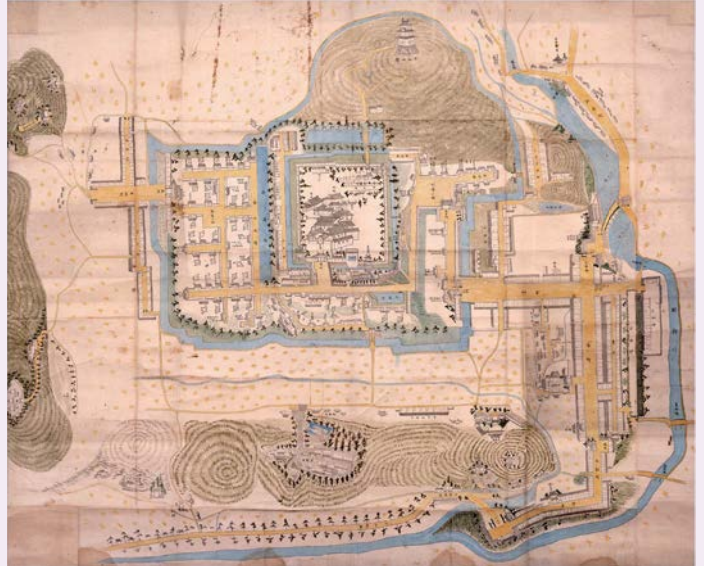
園部藩の 歴史と文化

園部藩は元和5年(1619)、但馬国出石藩主であった小出吉親が、丹波国船井郡を中心とする所領へ転封となったことにより成立した藩です。初代藩主となった吉親は藩政機構の拠点である園部陣屋を築造し、さらには経済の中心地となる町場を整備して藩の基礎を築きました。吉親の以後も小出氏が代々にわたって藩主となり、明治期の廃藩置県までの約250年間存続しましたが、そのなかでも明治2年(1869)に櫓や櫓門を新規築造し、陣屋から城への改修を行ったことは広く知られています。

南丹市は平成18年(2006)1月1日、船井郡園部・八木・日吉町、北桑田郡美山町の4町合併によって発足した自治体ですが、市域の多くはかつての園部藩領に含まれており、その当時から地縁的なつながりを有していました。また、園部城跡には市役所庁舎が立地し、さらに本丸跡が校地となっている府立園部高等学校には、巽櫓・番所・櫓門が残り、同校生徒をはじめ地域のシンボルとして親しまれています。

そうしたなかで、本年は園部藩の誕生から400年、さらには櫓を新規築造した改修工事から150年の節目を迎えました。今回の特別展では、これまでの研究成果をふまえながら、各地に残る様々な文化財を通して園部藩成立から終焉までの歴史を紹介します。

本展が南丹市周辺地域の歴史と文化について見つめ直す機会となるとともに、ふるさとに受け継がれてきた文化財についてもご理解を深めていただく契機となれば幸いです。



園部城絵図(個人蔵)

鯰瓦(当館蔵)



木造小出吉親像(徳雲寺蔵)



琴棋書画図綴錦見送(丹波祭り囃子保存会蔵)



寺社類集(個人蔵)

火縄大筒(国立歴史民俗博物館蔵)



生身天満宮祭礼絵巻[部分](武部昌英氏蔵)